

ひろしまのまちづくりの動き

□ 中央公園関連の動き

創刊号(平成24年9月15日)

○公開された旧広島市民球場跡地委員会(第4回)を拝聴した!

・これまでの動き

2011年10月に球場跡地の活用策を考える跡地委員会を立上げ、★都市の中核性、文化的な機能強化、回遊性、実現性等の視点で議論し、12年度末までに活用策を出す予定。これまでに3回の委員会と4回の検討グループ会議が開催される。

・第4回跡地委員会

2012年8月10日(金)に開催され、検討グループ会議で整理された中間取りまとめ(案)について議論する。球場跡地に相応しい主たる機能として文化・芸術機能と緑地広場機能に絞り込む予定であったが、スポーツ複合型機能等を推す意見の巻き返しがあり、中間取りまとめは流れる。機能を単一ではなく、複合的に捉えるべきであるという意見が多く出される。

・第5回跡地委員会

8月24日(金)に開催され、相応しい機能として、文化・芸術、緑地広場、スポーツ複合型の3つに絞り、中間とりまとめとする。その結果を8月31日に松井市長に報告。今後、市がイメージ図と概算事業費を作成し、実現の可能性等を検討する。

コメント

3つの機能に絞り込まれ、大詰めの段階を迎える。中央公園とその周辺には多くの機能がすでに備わっている。機能を比較することではビジョンは決まらない。球場跡地をひろしまのコア空間の中心と捉えると、周辺のさまざまな機能を有機的に結合し、連続する役割が最優先する。その意味でスポーツ機能はあり得ないし、平和発信機能は欠かせない。

委員会のメンバーが自分の所属する組織の意見から離れ、一広島市民としてどの機能を優先すべきかを真剣に考えれば、自ずと回答が導き出されるものと思う。なお、9月14日付け中国新聞[発言 / 交差点(意見募ります)]で、球場跡地の活用について意見を求めているが、市民的な議論の盛り上がり期待したい。

○平和記念資料館企画展「基町 姿を変える広島開基の地」に行こう!

- ・期間：2012年12月12日(水)まで
- ・会場：広島平和記念資料館東館地下1階展示室(5)

今、広島平和記念資料館で企画展「基町」が開催されている。広島開基の地「基町」は広島城のお膝元から軍の中心地へ、そして被爆からの復興をとげて高層アパート群、中央公園内の文化施設やスポーツ施設、県庁や市民病院等の現在の姿に変遷している。これからも変わり続けていくであろう。



第4回跡地委員会傍聴
(2012年8月10日)



旧球場跡地現状
(2012年5月)
(撮影：広島平和記念資料館)



展示会場

今、旧市民球場跡地が見直されているが、基町の歴史を振り返り、将来の姿に思いをはせることは意義深いと思う。12月12日まで開かれているので、興味ある方は足を運ばれたい。

コメント

戦前は城内に大本営が置かれ、軍都の中心地のイメージが強いが、一方で、練兵場等で博覧会や競馬・オートバイレースが行われ、屋台や見世物小屋で賑わい、市民の憩いの場でもあったという。意外である。

被爆により壊滅し、その後の復旧・復興には紆余曲折があったが、川沿いのバラック住宅は当時の記憶が蘇る。戦後間もなくこの地区の旧軍用地の大半は公園用地となり、市民広場、中央公民館、児童文化会館、児童図書館等の施設が建設されたが、今は跡形もない。

旧市民球場が1957年に完成し、その頃には児童文化会館も残っていたが、1964年に旧県立体育館建設のため取り壊される。旧市民球場も解体され、どのような形で記憶が残されていくのか。

かつて丹下健三氏は中央公園を平和公園に対して、市民が楽しく、豊かに暮らすことにより、平和を享受する地域として提案している。そのビジョンは引き継ぐべきと思う。

第2号(平成24年11月15日)

○旧広島市民球場跡地委員会・第5回検討グループ会議が開かれた！

・これまでの動き

2011年10月に市民球場跡地の活用策を考える跡地委員会を立上げて1年が経過した。都市の中核性、文化的な機能強化、回遊性、実現性等の視点で議論し、12年度末までに活用策を出す予定としている。これまで跡地委員会が5回開催され、相応しい機能として、【文化・芸術機能】、【緑地広場機能】、【スポーツ複合型機能】の3つに絞り込む。市が3案のイメージ図と概算事業費を作成し、次回の委員会で絞り込むこととなるのか？

・第5回検討グループ会議

11月6日、跡地委員会の検討グループ会議が開催された。市事務局で作成したイメージ図(たたき台)3案が提示され、併せて委員からサッカースタジアム案も提案された。今後、補完施設も含めた詳細なイメージ図を基に議論することとなる。

広島商工会議所から「旧広島市民球場跡地活用策の基本的な考え方について」の文面が提示され、市からの要請があれば、移転の是非も含めて検討するとある。



第5回検討グループ会議傍聴
(2012年11月6日)



中国新聞(2012.11.7) 転載

コメント

ちょっと待て

旧市民球場の跡地活用は、平和公園から中央公園に繋がる広島市の都心地域としてこれからのまちづくりの中心課題を担う。この地域は、隣接する河川と併せて瀬戸内海を介して世界に広がる面積を擁している。この広がり、ニューヨークのセントラルパークや皇居と比較しても遜色のない世界的に誇れる都市空間である。広島市に考えられる都市機能を配分する方法で活用策を探ろうとする今の委員会方針(市・事務局方針)からは、正解は出てこない。

中国新聞が「発言/交差点」で取り上げる

9月14日朝刊の「意見募ります」は、①広島市をどんな都市にしたいと思いますか、②そのために球場跡地の活用プランをどう描きますか、③そしてアイデアを実現するために行政

や市民がそれぞれ果たすべき役割は何だと考えますかと読者に問いかけた。23名と深山商工会議所会頭の意見が掲載されたが、どれも委員会の検討内容とはクロスされていない。特に①と③については、意見がほとんど出なかった。

そこでぶっさら棒な提案だが

66年前、ひろしまでは改めてまちづくりが始まり、市民の努力と情熱によって復興を遂げた。これからのまちの動きは、この上に立って被爆100年(西暦2045年)をも視野にいれたものであるべきである。この時点では、市民と行政が協働し、世界に向けて発信し続けているはずである。

そのため、今この時点から、できることを提案したい。

●まちづくりの主体は、市民である

行政は、まちづくりの実体ではない。あくまでもまちづくりの事務局である。行政は、このことを相互に認識できる状況を作ることが役割である。意識のある市民が参加できるシステムが必須となる。今、動いているひろしまのまちづくりの内容をより多くの市民に知らせ、考える場を提供し、市民が実感をもってまちづくりに参加することが原点である。それを考えるための装置を球場跡地の活用プランに期待する。

第3号(平成25年1月15日)

○旧広島市民球場跡地委員会(第6回)が開かれた!

・これまでの動き

これまで跡地委員会が5回開催され、相応しい機能として、【文化・芸術機能】、【緑地広場機能】、【スポーツ複合型機能】の3つに絞り込む。市が3案のイメージ図と概算事業費を作成し、絞り込むこととなる。

・第6回跡地委員会

昨年11月30日、跡地委員会が開催され、市事務局で作成したイメージ図6案が提示された。委員から各案に対して意見や感想等を述べ合ったが、意見が集約されることもなく、次回委員会で継続審議となる。



第6回跡地委員会傍聴
(2012年11月30日)

傍聴しての感想：前田洋枝(南山大学講師)

『跡地問題で熟議を生む可能性を考える』

筆者は、ドイツの市民参加の方法を手本にした「跡地創造101人委員会」を広島市民有志の実行委員会で企画した。(本来はこうした場を跡地委員会や市に主催していただきたい。)市民参加でまちの将来を考える会議の実施や、その会議成果をより多くの人に伝え、さらに対話の場を作り出そうとする試みに多少なりとも関わってきた経験から言えば、本気で市や跡地委員会が市民の多様な意見を集め、旧広島市民球場跡地の利用について考えたいなら、「何かもつと生かせないか?」という目で今の跡地委員会を見れば、まだまだあると伝えたい。

熟慮された意見を集めるために「小道具を生かす」

自身と異なる立場・考えの人と意見交換する機会には実は普段は多くない。パブリックコメントで寄せられる意見は、多様な視点での検討を経たものはあまり多くないかもしれない。

しかし、例えば、各案の説明とさまざまな立場の委員の発言という(せっかくの!?)「多様な視点からの情報提供」を受けた傍聴者の意見や感想は貴重ではないか?ワークショップや講演会などならごく普通に参加者や聴衆に配布される「感想用紙」を配布しない手はない。

また、今回の跡地委員会での「各案の長所・短所を考える」という討議方法も、跡地委員会の議論にとどめず、市民に開くことが考えられる。「4案の評価記入シート」(あるいは他の案

を加筆できるように4案+オリジナルの評価記入シート)を他の資料と一緒にネット上で公開して意見募集のフォーマットにしたらどうか。市民は、さまざまな案を比較検討するステップを経て意見を寄せることで、自分が支持する案と異なる案についても考慮する機会ができる。市や跡地委員会としても、市民から寄せられた意見の検討を深めやすくなるだろう。

熟議が生まれうる「機会を生かす」

おりしも今回と次回の委員会の間には年末年始を挟んだ。「ひろしま市民と市政」に評価記入シートと各案の概要(および詳細情報のURLなど)を掲載し、「お正月の家族・親戚団らんで、広島のみちが将来どのようなようになってほしいか、旧広島市民球場跡地がどのように活用されたら、若者にもその他の年代にも魅力的な街になりそうか、話をしてほしい、話した結果の評価シートを市役所にメール・ファックスなどで送付を」と市民に呼び掛けることもできただろう。普段広島を離れている人々が広島に戻る年末年始やお盆は、広島に住み続けている人々と、広島をよく知りつつ他都市を比較しての意見をもつ人々が、多様な世代のいる場で意見を交換できる貴重な機会と言える。小さな熟議がそこそこで生まれうる。

上記の案は例に過ぎない。このように、討議でよく使われるたった1枚の作業シートからさえ、市民全体での議論につなげることも可能だ。跡地委員会の議論にも、市民の議論を促すことにも、1つ1つの討議の方法や小道具が持つ力をしっかり生かしてもらいたい。

願いは1つ。跡地利用計画作りに市民の熟議を！

第4号(平成25年3月15日)

○旧広島市民球場跡地委員会が最終報告書を提出！

1月25日、第7回跡地委員会が開催され、旧広島市民球場跡地の活用について最終報告(案)が承認された。昨年8月の中間とりまとめから進展はみられない。

結論は、相応しい機能として【文化芸術機能】、【緑地広場機能】、【スポーツ複合型機能】に【文化芸術+緑地広場機能】が追加されたが、実現の可能性等については全く触れられていない。

今後はこの報告書を踏まえて市の方で検討し、最終的には3月末までに市長が決断を下すことになる。



第7回跡地委員会傍聴
(2013年1月25日)

傍聴しての感想

旧球場跡地をターゲットに若者のにぎわいの場にしたいという、最初の目標設定に問題があった。中央公園全体の在り方を示したうえで、球場跡地を検討すれば、早く解答が導き出されたであろう。市内部の「中央公園の今後の活用にかかわる検討状況(中間報告)」が公表された昨年11月末の時点で、本委員会の役割は終えてしまった。

○日本建築家協会広島地域会にまちづくりワーキングを設置

昨年11月末の旧広島市民球場跡地委員会(第6回)を傍聴した後、広島に住む建築家としての意見を提言する必要性を感じた。日本建築家協会中国支部役員会の承認を得、広島地域会に「ひろしままちづくりワーキング」を12月に立ち上げる。

会員から参加希望者を募り、4人のメンバーで年末に



ワーキング風景

第1回目をスタートした。以降、これまで6回の検討を終え、提言の全容が見えてきたので、ここにその概要を簡単に報告する。

ワーキング・メンバー（JIA 会員）
高志俊明、高橋幸子
瀧口信二、前岡智之（座長）

1. 中央公園全体のビジョン

少子高齢化社会や地球環境問題等により、持続可能な社会に移行し、我々の生活スタイルも変わっていく。新たなニーズに対応した中央公園が求められている。一方で、平和公園と中央公園は一体となって国際平和文化都市ひろしまのコアであり続ける。

2. ひろしま市民ひろばのビジョン

旧市民球場跡地は平和公園と中央公園を結ぶ要の地である。市民の願望により作られた旧市民球場が市民のエネルギーの復活の場であったように、ひろしまの・世界の中心として市民のエネルギーの発露の場であり続ける。

3. 都市デザインの提案

ひろしま市民ひろばを中心に中央公園全体の価値を高めるため、中央公園の周辺も含めたエリアの具体的な提案を行う。

4. 新しいまちづくり手法等の提案

従来の条件適応型の計画手法ではなく、市民が主体となった課題解決型のまちづくり手法を導入するとともに公園の管理運営についても市民との協働を提案する。

5. マスタープラン等の提示

具体的なイメージを伝えるために全体配置図、模型写真、スケッチ等を添付する。

*** 3月末までには公表する予定である。**

第5号(平成25年5月15日)

○広島市長が旧市民球場跡地の活用方針発表！

広島市長は3月27日に旧市民球場跡地の活用方針として、「文化芸術」、「緑地広場」、「水辺」の3エリアを設定し、具体化を検討すると発表した。

今回の活用イメージを基に、今年度は基本計画の策定に取り組む予定である。なお、サッカー専用スタジアムの建設については、別途議論を行う官民一体の協議会の結論を待つて判断するという。

コメント

旧市民球場跡地委員会の議論を踏まえ、中央公園の活用に関する市の庁内検討会議の方向性に沿って、球場跡地活用のイメージが策定された。

日本建築家協会広島地域会の提案と基本的なスタンスにおいて大きな違いはないが、狭い球場跡地エリアに文化芸術施設と緑地広場を収めているのはどちらも中途半端となる。文化芸術施設は中央公園全体の中に位置づけて考えるのが望ましい。



市の球場跡地活用のイメージ